

## わたしの名前、あなたの名前

中村 桃子

### はじめに

今回は、「家族・ことば・ジェンダー」というテーマにちなんで大会実行委員会からいただいた要望に沿って、1. 婚姻改姓・夫婦同姓、2. 夫婦の呼称という、名前に関する2つのテーマをとりあげる。両方のトピックに関しては、すでに多くの研究が行われているが、今回は、人の名前や呼称に関するさまざまな現象のうちのひとつに焦点を当てたい。それは、名前とは、単にある人物を指し示すためだけに用いられるのではなく、人物や人物を取り巻く人間関係を規定したり、変化させる場合もあるという点だ。私たちは、名前や呼称をさまざまな場面で使い分けることで、それぞれの考える「夫婦」や「家族」を日々つくり上げている。その意味で、名前や呼称は、使い方によっては、今ある夫婦や家族の関係を変化させる可能性を持っている。

### 1. 夫婦同姓——「家の嫁」意識を支える

現代の日本社会では、名前に関して、名前はその人そのものであるという「名実一体観<sup>めいじついつたいかん</sup>」と名前は人物を特定する符号に過ぎないという「名前符号観」の両方が観察される（高梨 1981）。

名実一体観における名前と人物の関係は、（1）人物が変わればそれにあわせて名前も変わる、（2）人物が変わる前に名前を変えることで、人物も変身することを期待する、（3）人物が「こうなりたい」という願いを名前に託すなど、さまざまな段階が考えられるが、重要なのは、改名は人物の変身を期

待させる点である (中村 2010)。

この期待感を婚姻改姓にあてはめると、婚姻時に改姓した人物は変身を期待されることになる。日本の戸籍は「姓」によって束ねられた「家」を単位として編製されているので、「姓」の変更は所属する「家」の変更として解釈される可能性が高い。現在の日本では97%は女性が婚姻改姓をしているので、女性が夫の「家」に所属を変更したと解釈されるだろう。「家」の変更は女性が「家の嫁」に変身することを期待させる。姓に基づく家単位の戸籍と民法の規定する夫婦同姓は、「家」や「家の嫁」意識を維持する働きをしているのだ (中村 1992)。

だからこそ、婚姻改姓して夫と同じ姓になることに「夫との一体感を感じる」女性もいるし、家父長制を維持したい人は夫婦別姓を認めない。しかし同時に、夫婦同姓が「家の嫁」意識を助長しているとしたら、夫婦別姓や通姓の使用には、家父長的家族観を変えていく力があるともいえる。

## 2. 夫婦の呼称——関係をつくり出す

呼称による話し手と聞き手の関係も、(1) 現在の人間関係に一致した呼称を選択する、(2) 人間関係が変われば、変わった関係と一致した呼称に変更する、(3) 人間関係を変えたい場合は、目標となる関係と一致した呼称に変更するなど、いくつかの段階が考えられる。重要なのは、はじめから関係があるのではなく、話し手はさまざまな呼称を使い分けることで、それぞれの場面に応じた関係を調整すると考えられている点だ。

この考え方に従えば、個々の呼称がどのような関係をつくり出しているのかを知るには、個々のやり取りを詳細に分析する必要がある。その点で、アンケート調査中心の従来の研究には問題が多いが、興味深い指摘も見られる。

ひとつは、同じ呼称が異なって解釈される現象である。たとえば、夫の中には妻を「お前」と呼ぶ人がいる。これを、「親せきや友人の手前、夫の権威を誇示している」と解釈する妻がいる一方で、「妻への親しみ」を表していると解釈する妻もいる (Nagura 1992: 55-6)。二つ目に、呼称の変更が関係の変更を反映／構築する場合である。2004年のテレビドラマでは、専業主婦

だった妻を「お前／あんた」と呼んでいた夫が、妻が夫の元を離れて独立した女性になったことを認めてから、名前で呼ぶようになる（張 2011: 108）。三つ目に、二人だけの時には、名前や愛称で呼び合う夫婦が増加している。50代以上の夫婦の多くは二人だけの時でも「お母さん／お父さん」と呼び合うが、それより若い夫婦の間では名前や愛称が最も多く使われる。

これらの指摘は、それぞれの場面には使える呼称の制限がある一方で、話し手には、呼称を工夫することで夫婦の関係を変化させる可能性も与えられていることを示している。

## まとめ

夫婦同姓と夫婦の呼称に関する研究は、名前や呼称が「夫婦」や「家族」についての考え方をつくり出している重要なことばであることを示している。

## 【参考文献】

- 高梨公之（1981）『名前のはなし』東京書籍。  
中村桃子（1992）『婚姻改姓・夫婦同姓のおとし穴』勁草書房。  
\_\_\_\_\_（2010）「私の名前・あなたの名前」『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社、214-228。  
洪珉杓（2007）「日韓両国人の言語行動の違い（10）夫婦呼称の日韓比較」『日本語学』26（2）：80-92。  
Nagura, Toshie（1992）The Use of Address Terms between Japanese Spouses.『世界の日本語教育』2：45-63。  
曹偉琴（2003）「言語使用と社会的価値観——中国人夫婦の呼称を中心に——」『社会言語科学』5（2）：48-57。  
張玉（2011）「夫婦呼称の中日比較」『浜松大学研究論集』24（1）：105-113。

（なかむら ももこ・関東学院大学教授）